

だ み よ く り に

No.746 令和6年2月1日発行



「大切なものとは」

心が騒がしい年始めとなりましたが、皆さん、ご親戚やご友人の方々も大丈夫でしたか。当たり前が当たり前ではないのだと気づかされた出来事。いざという時のために備えつつ、平穩に過ごせる一年であることを心より願うばかりです。

そして、そんな時こそ目の前の日常を大切に過ごしていかなければなりませんので、今月号も勝手ながら思いを込めて筆を取ろうと思います。

不思議なことに、毎年毎年、各学年の色があります。それぞれに良さや雰囲気があって、まさに「みんなちがってみんないい」のです。

「みんなちがってみんないい」は、金子みすゞさんの詩で、現在は小学三年生の国語の教科書に載っているようです。覚えてらっしゃいますか。おそらくわたしたち大人も子ども時代に習い、聞いたことのある言葉かと思います。なぜか耳に残り続けていた言葉ですが、言葉はその時々によって受ける印象や感じ方が変わりませんか。わたしは、今回久しぶりに読んだところ、子育ての心持ちに通じる所があると感じる詩がありました。みなさんはどう感じられるでしょうか。

『星とたんぼぼ』

青いお空の底ふかく、海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、屋のお星は眼(め)にみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ 見えぬものでもあるんだよ
散ってすがれたたんぼぼの 瓦のすきに、だアまって、
春のくるまでかくれてる、つよいその根は眼にみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ 見えぬものでもあるんだよ

例えば、ここに出てくる「見えないもの」を「将来」や「未来」とすると、不安や焦る気持ちが薄まり、「今」を見つめることができる気がします。あるいは、見えな

いものを「人の気持ち」とすると、人との向き合い方を考えさせられます。先日乗った電車内で聞いた会話なのですが、大学生くらいの若者が、面白おかしくお互いのことを悪く言いあっているのです。そのようなコミュニケーションを面白く感じる時期があるのかもしれませんが、それにしても……という会話でした。そんな場面に出くわすと、「どんな子ども時代を過ごしたのだろう」とつい考えてしまいます。相手の気持ちを想像する、良い悪いを判断する、相手に流されることなく自己を発揮する……ことができれば、このような会話は成立していないだろうと。人の基礎基本に携わる身としては一体どうしてそうなるのだろうと非常に残念に感じたのと同時に背筋が伸びました。

この場面から感じたのは「大切なものを見る力」です。ここで、金子みすゞさんの詩からもうひとつ載せます。

『積もった雪』

上の雪 さむかろな。 つめたい月がさしていて。
下の雪 重かろな。 何百人ものせていて。
中の雪 さみしかろな。 空も地面(じべた)も見えないで。

見えないものにも目を向け気づくことのできる人であれば、人と人との間でより心地良く生きられる、と思います。子どもたちの未来がそういうものであってほしいです。

人のことを言う前にわたしも精進しなくてははいけませんね。今年目標が増えるばかりです。人の見えない気持ちに寄り添い、見えない未来に心を向けて過ごしていきます。そして、見えないからこそお伝えします。子育て、家事、仕事、介護、勉強……毎日本当にお疲れ様です。